

THE UKI NEWSLETTER

夢と希望が詰まった新校舎で新たな歴史を 小川中学校新校舎 完成

胸高鳴る学び舎の完成

8月28日、小川中学校の新校舎が完成し、落成式が行われました。式には守田憲史市長や平岡和徳教育長、地域住民や学校関係者など約110人が参列し、新校舎の完成を祝福。

この日は、校舎建築工事で尽力した企業に感謝状が贈呈されたほか、新校舎の内覧会も行われ、見学者たちは新たな学び舎での生徒たちの成長に期待を膨らませていました。

図 学校施設課 ☎27-4240



◀新しい学び舎の前で落成のテープカットをする参列者たち

■落成式でのコメント 守田憲史 宇城市長

「校舎の建て替えは地域の皆さんの並々ならぬご尽力のおかげです。バリアフリーや防災機能を備えた新校舎はまさに地域の新たなシンボル。これからの宇城市を支える生徒たちの夢を育み、未来の人材を育てる拠点として生かしていきます。」

小川中3年 岩村美沙 生徒会長

「夢と希望が詰まっている新校舎で小川中学校の新たな歴史を生徒全員で作りに上げていきたいです。」



新校舎の内覧会の様子

校舎の建て替えへ

昭和47年から利用されてきた同校の施設。約半世紀にわたり次世代を担う子どもたちの拠点として地域に親しまれてきました。しかし、平成28年の熊本地震で大きく

新校舎の特色

「生徒一人一人が自ら考え、判断・表現して成長していける学校」を設計コンセプトに、3つのテーマを設定し整備しています。



1 生徒が自ら考え、居場所を選べる

ICTを基盤としたGIGAスクール構想に対応した校内無線LANの通信ネットワークを構築。1人1台のパソコン端末が高速大容量のネットワーク環境に接続可能です。

さまざまな生徒に対応できる特別支援教室(管理・特別教室棟1階)を十分に整備。バリアフリーな空間整備とユニバーサルデザインに配慮した、誰もが利用しやすい施設になっています。

2 生徒、先生が細かくコミュニケーションをとれる

チームティーチングなど多様な学習形態に対応できる教室空間を確保。各階には少人数指導を行う

3 安全・安心に利用でき、地域が支える

少人数教室を整備しています。また生徒の進路指導や学習の悩み相談などに柔軟に対応できるよう、小会議室を4室、カウンセラー室を3室設置しました。

新校舎は、死角を減らし来校者動線をはっきりさせるなどして視認性を高め、防犯性を向上。屋内運動場や武道場、卓球場などの屋内施設を社会体育活動へ開放するため、独立して利用できる造りとなっています。

学年ごとの一斉指導、各種研修や会議など、比較的多数で使用できる多目的・会議室を各階に1室配置しています。

宇城市地域防災計画で指定緊急避難所にもなっている屋内運動場は、避難所としての耐震性を確保し、小アリーナ、多目的室を整備。避難者の状態に応じたすみ分けが可能です。

旧校舎の配置計画で大きな問題となっていた、駐車スペースは、学校行事や施設利用者をはじめ、避難時の利用を考慮。330台程度を確保し、令和6年度に完成予定です。

新校舎配置図



建築工事概要

工事名 小川中学校改築工事
工期 令和3年9月15日～令和5年9月29日

工事費(事業未完のため概算)	単位：千円		
	国庫補助金	地方債	一般財源
3,285,000	795,000	2,371,000	119,000

被災。その後、老朽化した校舎棟3階の天井材が崩落するなど、生徒の安全確保に大きな支障を及ぼしていました。そこで、同校PTAなどで構成する建替検討委員会などが要望を出し、令和元年から新校舎の建て替えが進められました。

安全・安心な学校運営を目指し、校舎棟をはじめ屋内運動場や武道場などの関連諸施設を建て替え。今後は、旧施設の解体やグラウンド整備などの工事を行い、令和6年11月末をめどに全体事業の完成を目指します。